

令和 7 年 2 月 28 日（金）

東金市議会第 1 回市民との意見交換会実施報告

議会改革特別委員会

委員長 上野 高志

副委員長 坂本 賀一

東金市議会の議会改革特別委員会では、より「市民に開かれた議会」の実現を最大の目標として、「議会の見える化」に取り組んでまいりました。更に今後も継続的な目標として、一層の充実を図っていきたいと考えています。

この目標実現のため、市民の皆様と議員との自由に語り合う場を作り、そこでのご意見を基に、議会として政策立案できるよう進めていかなければならないとも考えています。

まずはファーストステップとして、令和6年5月11日（土）に、第1回東金市議会報告会を開催し、「10年後の東金市」をテーマに意見交換会の実施から始めました。

当日は、高校生から高齢者まで幅広い年齢層の35名の市民の方々にご参加いただき、議員18名とともに、ワールドカフェ方式で活発な意見交換をおこなうことが出来ました。

その後、集まったご意見は、議会改革特別委員会において、総務、文教厚生、建設経済の各常任委員会に割り振り、東金市ホームページでの公開や、次の議会報告会での市民の皆さまとの更なる意見交換に向けて、詳細かつ具体的な内容検討をおこなってきました。

この結果に基づき、各意見の背景、現状分析、課題、そして今後の対応策等について、大枠の共通テーマごとにも整理・分析を行ってきました。

今回は議会としても初めて試みた意見交換会ということで、試行錯誤の連続でしたが、ようやくこうしてまとめるところまで来ることが出来ました。

今後もこのような意見交換を継続的に行い、市民の声を反映した議会運営や政策立案に取り組んでいかなければならないと考えております。（政策サイクルの実現）

次ページ以降、今回の第一回意見交換会の現段階での調査分析結果として各常任委員会別（総務・文教厚生・建設経済）にまとめましたのでご覧頂き、ご意見なども伺えれば幸いです。第2回議会報告会や意見交換会にも反映させていきたいと考えます。

10年後の東金に関する市民との意見交換まとめ

総務常任委員会

総務常任委員会での10年後の東金市をテーマにした意見交換会では、幅広い分野から83の意見が出されました。総務常任委員会の特性だと思いますが、所管分野が広範囲にわたることもあり、3常任委員会で一番多くの意見がありました。先ず、担当議員別に意見内容を整理し、その後、意見を大きく2つにグルーピングをおこない、それぞれの要点をまとめ、その上で要約を作り、それを基に全体要約も作成しました。更にそれらを元に、現段階での今後の課題と調査検討の方向性についての考察もおこないました。

●意見のまとめ（その1）：防災減災

要点

ドローン活用：災害時の物資輸送や状況把握にドローンを活用したいという強い要望がある。ただ、課題としては、運用体制、情報共有、技術者育成、資金調達など、実現に向け課題が山積している状態。

今後の展望：市内外の関係機関との連携、民間企業との協定締結、技術者育成のための予算措置などの検討が必要。

この意見の要約

ドローンを活用した災害対応は、迅速な物資輸送や被災状況の把握に期待が持てる一方で、技術的な課題や運用体制の構築が急務である。関係機関との連携を強化し、民間企業のノウハウを積極的に取り入れることで、より効果的な防災体制を構築することが求められると考える。

●意見のまとめ（その 2）：働き方のあり方

要点

女性の社会進出と若者の活躍: 女性の社会進出と若者の起業を促進し、地域経済の活性化を図りたいという意見が多い。課題としては、就業場所の不足、起業支援体制の不備、人材育成の遅れなどが挙げられている。

今後の展望: 起業支援策の拡充、女性活躍推進のための取り組み、人材育成のための支援策などの検討が必要。

この意見の要約

地域経済の活性化には、女性の社会進出と若者の活躍が不可欠である。起業支援策の拡充や、女性が働きやすい環境づくりを進めることで、地域の魅力を高め、人口減少に歯止めをかけることも期待される。

●全体の意見要約（まとめ）

今回の意見交換会では、防災減災と働き方のあり方の 2 つの大きなテーマについて、活発な議論が交わされました。

- ① 「防災減災」については、ドローンを活用した新たな防災体制の構築が期待されている。
- ② 「働き方のあり方」については、女性の社会進出と若者の活躍を促進し、地域経済の活性化を図りたいという強い要望がある。

これらの課題解決に向けては、市だけでなく、県や国、民間企業など、様々な主体が連携し、具体的な施策を推進していくことが重要。

●今後の課題

- ① 具体的な施策の検討
各テーマについて、具体的な施策を検討し、実行計画を策定する。
- ② 関係機関との連携強化
市内外の関係機関との連携を強化し、情報共有を進める。
- ③ 市民への情報発信
市民への情報発信を強化し、意見交換会で得られた成果を共有する。

これらの取り組みを通じて、東金市はより住みやすく、魅力のある街へと発展していくことが期待されると考える。

(補足)

- ①各テーマに関する専門家や市民からの意見を積極的に聞き取り、多角的な視点から課題解決に取り組むことが必要であると考えます。
- ②地域の実情に合わせた柔軟な対応も求められる。

●現段階での提案として

- ①ワークショップの開催
市民や関係機関と共同でワークショップを開催し、具体的な施策を検討する。
- ②モデル事業の実施
小規模なモデル事業を実施し、その成果を検証する。
- ③広報活動の強化
市の広報誌やホームページなどで、取り組み状況を積極的に発信する。

10年後の東金に関する市民との意見交換まとめ

文教厚生常任委員会

最初に、10年後の東金市をテーマに、担当議員別におこなった市民との意見交換で出た内容を整理しました。その後、市民からの意見をグルーピングすると共に、出た意見を「1：通学」に関する意見から「13：外部に開かれた学校」まで、その要点をまとめ、全体を4つのグループにまとめました。その上で全体の要約を作りました。更にそれらを元に、今後の調査検討の方向性について考察してみました。

●意見別の要点

意見 1：通学に関する意見

要点：長距離通学による児童生徒の負担、高校生の交通手段の少なさ、通学費用の負担などが課題。他自治体の補助制度や交通事業者への支援事例を参考に、通学環境の改善を検討

意見 2：高齢者対策に関する意見

要点：高齢者の移動手段（タクシー券、循環バス）、生活環境（ベンチ設置、店舗増加）、バリアフリー化などが課題。健康寿命の延伸、Well-being な社会の実現、DX 活用力向上も重要な視点

意見 3：子育てについての意見

要点：明石モデルを参考に、子育て支援の充実、子育て世代に優しい政策を検討。明石モデルの長所だけでなく、課題点も考慮し、東金市に適した施策を検討

意見 4：障害者対策についての意見

要点：障害者の働く場所の確保、社会の関心向上、福祉タクシー券の柔軟な活用、公衆トイレのバリアフリー化、シニアの活動拠点整備が課題。企業への啓発、福祉事業所の誘致、移動支援クーポンの導入などを検討

意見 5：学習塾についての意見

要点：塾の必要性に対する意見が分かれている。教師の指導力向上を最重要課題とし、塾通塾率調査後に具体策を検討

意見 6：学力向上についての意見

要点：「読み書きそろばん」の重要性、IT 機器の過度な使用による読解力の低下が懸念されている。学校教育目標に「学力向上」を明確に位置づけること、読解力向上策、IT 機器の使用見直しを検討

意見 7：通学路についての意見

要点：八街市の事故を受け、通学路の安全確保が課題。道路整備の予算計上、歩道用地の確保が必要

意見 8：学園都市 PR

要点：東金市が持つ教育資源（小中高、大学）を十分に PR できていない。明確なコンセプト策定、効果的な PR 戦略、連携強化が必要

意見 9：生徒で物づくりを活性化

要点：学生の力を活用した街の活性化が課題。学習機会の充実、情報共有の促進、モチベーションの向上、支援体制の整備が必要

意見 10：部活を人材や時間投入でもっとやれるように

要点：部活動の更なる活性化が課題。指導者不足、活動時間不足、施設・設備の不足、生徒・保護者の負担などが課題。指導体制の強化、活動時間の確保、施設・設備の整備、生徒・保護者への支援、地域連携の推進が必要

意見 11：不良生徒をなくす取り組み

要点：不登校生徒への対応が課題。早期発見・早期対応のための体制整備、多様な支援プログラムの提供、関係機関との連携強化、情報共有の促進、保護者への支援体制の強化、不登校に対する啓発活動が必要

意見 12：学食をオープンに

要点：学食の地域住民への開放が提案されている。衛生管理、運営体制、費用負担、セキュリティ、学校教育活動への影響、地域住民のニーズ、アレルギー対応などが課題。パイロット事業の実施、関係者との協議が必要

意見 13：外部に開かれた学校

要点：学校施設の地域住民への開放が提案されている。情報発信の強化、利用手続きの簡素化、安全管理体制の強化、学校運営への配慮、費用負担の明確化、地域ニーズの把握が必要。

●意見のグルーピング

議論内容から、以下の4つの主要なテーマにグルーピングしました。

- ①教育環境充実 (意見 1, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13)
通学、学力向上、塾、学校のPRと活用、部活動、不登校対策など、教育に関わる広範な議論。
- ②高齢者福祉向上 (意見 2)
高齢者が暮らし安い環境整備に関する議論。
- ③子育て支援充実 (意見 3)
子育て世代への支援策に関する議論。
- ④障害者福祉向上 (意見 4)
障害者の社会参加と生活支援に関する議論。

●意見全体の要約

意見交換会では、教育環境の充実、高齢者福祉の向上、子育て支援の充実、障害者福祉の向上という4つの主要なテーマについて、具体的な課題と改善策が議論されました。特に、教育環境に関しては、通学、学力、学校のPRと活用、部活動、不登校対策など、多岐にわたる意見が出されました。

高齢者福祉に関しては、移動手段と生活環境の整備が中心的な議論となり、子育て支援に関しては、明石モデルを参考にしながら、東金市の実情に合った施策を検討していくことが重要であることが示されました。障害者福祉に関しては、社会参加と生活支援のための提案がなされました。

全体を通して、市民の生活の質向上、地域活性化、将来を見据えた持続可能なまちづくりへの意識が高いことが伺えます。今後は、これらの意見を踏まえ、具体的な施策を検討・実施していくことが求められます。特に、各意見で指摘されている内容を更に詳細に検討、課題の本質を捉えた上で、実効性のある施策を提案していくことが重要だと考えます。また、行政の関係各部署との連携を密にし、市民の皆さまの意見を反映させながら、議会として政策立案を進めていくことが望まれていると考えます。

●今後の具体的な調査検討の進め方についての考察

1. 優先順位の設定と段階的な調査

13 の意見項目すべてを同時に深く掘り下げるのは困難です。前述のグループ핑グと、東金市の現状の課題、市民のニーズなどを考慮し、優先順位を設定し、段階的に調査を進めていくことが大事になると考えます。一つの考え方として、以下に記述します。更なる議論を委員会としても重ねていくことも必要だと考えます。

●優先度の高いテーマ

①教育環境の充実

子育て世代の定住促進、地域活性化に直結する重要なテーマでだと考えられる。

特に、意見 1（通学）、意見 6（学力向上）、意見 8（学園都市 PR）は、相互に関連性が高く、複合的に調査することで、より効果的な施策立案につながる可能性がある。

②高齢者福祉の向上

高齢化が進む東金市において、喫緊の課題。

意見 2 は、他のテーマ（特に移動手段の確保は意見 1 と関連）とも連携できる可能性がある。

●中程度の優先度

①子育て支援の充実

意見 3 は、明石モデルという具体的な事例があるため、調査の方向性を定めやすい。

②障害者福祉の向上

意見 4 は、具体的な施策提案が含まれており、実現可能性を検証する調査が重要。

③関連テーマとして調査

意見 5（学習塾）、意見 7（通学路）、意見 9（物づくり）、意見 10（部活動）、意見 11（不登校）、意見 12（学食）、意見 13（学校開放）は、上記の優先テーマと関連付けて調査することで、効率的に情報収集できると考える。例えば、東金での状況を考慮しながら学園都市 PR（意見 8）の一環として、学食開放（意見 12）や学校開放（意見 13）を検討するといった進め方を考える。

2. 具体的な調査方法

調査方法（ヒアリング、アンケート、事例調査など）をよく検討して、以下のような具体的な手順で調査を進めていくことが考えられる。

- ①文献調査: 東金市の総合計画、教育委員会資料、統計データ、他自治体の事例などを収集・分析し、現状と課題の全体像を把握。
- ②ヒアリング調査:
 - 行政機関: 東金市役所（企画政策部、教育委員会、市民福祉部）、千葉県庁の関係部署を含めヒアリングを行い、施策の現状、課題、今後の方向性などを把握する。
 - 学校関係者: 校長、教職員、PTA などにヒアリングを行い、学校現場の状況、課題、ニーズなどを把握する。
 - 地域住民: 高齢者、子育て世代、障害者、地域団体などにヒアリングを行い、生活実態、ニーズ、意見などを収集する。
 - 専門家: 大学教授、研究機関、NPO などにヒアリングを行い、専門的な知見やアドバイスを得る。
- ③アンケート調査: 必要に応じて、市民を対象としたアンケート調査を実施し、広範囲な意見を収集する。（SNS 手法なども積極活用）
- ④事例調査: 他自治体の先進的な事例を調査し、東金市で応用できる点、注意すべき点を抽出する。
- ⑤フィールドワーク: 必要に応じて、現地調査（通学路の状況確認、公共施設の視察など）を行い、現状を把握する。

3. 関係機関との連携

調査を効果的に進めるためには、関係機関との連携が不可欠だと思う。

- ① 東金市役所内部
各部署（教育委員会、市民福祉部、企画政策部など）と連携し、情報共有や意見交換をおこなう。
- ② 千葉県庁
県の施策や支援制度を活用するために、関係部署との連携。
- ③ 学校関係者
市内の小中高、大学と連携し、情報提供や調査への協力を依頼。
- ④ 地域団体
地域住民の代表である自治会、NPO などと連携し、地域ニーズの把握や施策への協力を依頼。
- ⑤ 専門家
大学、研究機関、NPO などの専門家と連携し、助言や協力を依頼。

4. 情報の整理と分析

更に、収集した情報は、テーマごとに整理して分析していくことが必要。

① 情報の可視化

図表やグラフなどを活用し、情報を分かりやすく可視化する。

② 課題の明確化

分析結果に基づき、各テーマにおける課題を明確にする。

③ 施策の検討

課題解決に向けた具体的な施策を検討する。

④ 優先順位付け

検討した施策に優先順位を付け、段階的に実施していく計画立案。

5. 市民への情報共有と意見聴取

調査結果や検討状況は、適宜市民に情報共有し、意見を聴取する。

① 広報誌、ウェブサイト、SNSなどを活用

市民に分かりやすく情報発信する。

② 説明会、意見交換会などを開催

継続的に市民と直接対話する機会を設ける。

（第2回議会報告会と意見交換会に連動させていく）

6. PDCA サイクルの実施

施策の実施後も、効果検証を行い、必要に応じて改善していく PDCA サイクル（政策サイクル）を回すことが重要だと考える。

これらの手順を踏まえ、着実に調査検討を進めていくことで、10年後の東金市にとってより良い街作りになっていくと考える。特に、市民の意見を丁寧聞き、関係各所と連携しながら進めていくことが重要である。

10年後の東金市に関する市民との意見交換まとめ

建設経済常任委員会

最初に、10年後の東金市をテーマに、担当議員別におこなった市民との意見交換で出た内容を整理しました。その後、市民からの意見をグルーピングすると共に、それぞれ「1：出た意見」から「4：課題」までの項目別にその要点と、その後全体も要約としてまとめてみました。更にそれらを元に、今後の調査検討の方向性について考察しました。

●意見のまとめ 1:食と商業

東金グルメの少なさ、商業施設（特にサロン）の不足、苺の直売所の少なさ、みのりの郷東金の営業時間とその活用。

意見の要点:

① 出た意見

東金グルメ不足、サロン不足、苺直売所不足、みのりの郷東金の営業時間延長と若者のたまり場としての活用。

② 意見の背景/主旨

人が集まる場所、美味しいものを食べる場所の不足。

③ 現状

特産品の少なさ、若者のたまり場の少なさ（市外流出）、みのりの郷東金の営業時間（9:00-18:00）、苺直売所は約20箇所。

④ 課題

特産品不足、若者の交流の場不足、みのりの郷東金の営業時間への不満、苺直売所のアピール不足・個別営業。

意見まとめ 1 要約

食と商業、特にみのりの郷東金を中心とした産業活性化がテーマです。特産品やグルメの不足、若者が集まる場所の不足が課題として挙げられ、みのりの郷東金の営業時間延長や若者のたまり場としての活用、苺直売所のPR強化などが提案されています。委員会としては、みのりの郷東金を中心とした施策展開を重視し、試行錯誤を恐れずに粘り強く取り組むことが重要。

●意見のまとめ 2：企業誘致とみのりの郷東金活用

一つ目は、企業誘致と雇用

企業誘致の推進、働く場の確保（遊休地活用若者向け企業誘致）、若者の起業支援。

二つ目は、みのりの郷東金の活用

みのりの郷東金の拡張、周辺への関連企業集約、観光・特産の情報発信。

意見の要点:

① 出た意見

企業誘致（特にインターチェンジ付近への工場誘致、若者向け企業誘致）、働く場の不足、若者の起業支援。

② 意見の背景/主旨

農業中心の地域性、企業誘致の遅れによる若者の流出、東金有料道路と圏央道の交差という好条件の活用、若者の興味関心を引き付ける企業誘致の必要性。

③ 現状

企業誘致用の開発用地の不足、商工会議所による起業講座はあるが若者特化型ではない。

④ 課題

用地確保の難航、進出希望企業への用地情報提供の遅れ、若者向け情報発信の不足。

意見まとめ 2 要約

ここでは、企業誘致と雇用創出が中心課題。特に、インターチェンジ付近の用地活用や若者向けの企業誘致、若者の起業支援が重要視されています。また、みのりの郷東金を観光・特産品の発信拠点として拡張する提案も出ています。委員会としては、用地確保と情報提供の円滑化、起業講座の周知徹底、若者への情報発信強化、みのりの郷東金を中心とした産業交流拠点のより有効な活用も必要だと考える。

●意見のまとめ 3：食と健康そして食育と地産地消

一つ目は、食と健康

有機野菜の拡充、飲食店の新たなあり方、飲食フェスティバルスティバルの開催。

二つ目は、食育と地産地消 食育の推進、地産地消の取り組み。

意見の要点:

① 出た意見

有機野菜の拡充、飲食店の新たなあり方、飲食フェスティバルの開催。

② 意見の背景/主旨

食は生活の基本であり、地域の自然環境と食材を活用することで地域を守り、活性化につながる。

③ 現状

食育の推進（学校給食、こども食堂）、食文化の推進、伝統的な食文化の継承、地産地消の取り組み、食料自給率の低下、有機農業の普及の課題（労力、生産量、販路）。

④ 課題

健全な食生活の実践、フードロス削減、食料自給率向上、有機農業の拡大。

意見まとめ 3 要約

ここでは、食と健康がテーマ。有機野菜の拡充や飲食店の新たなあり方、飲食フェスティバルの開催などが提案されています。また、食育と地産地消の推進も重要視されています。委員会としては、「地場産業が活発で健康長寿のまち東金」を目標に、健全な食生活の推進と地産地消の取り組みを具体的に進めることで、健康寿命の延伸、地場産業と地域経済の活性化、交流人口の拡大を目指して行くことが必要と判断する。

★建設経済常任委員会意見の全体要約

全体の意見を総合すると、10年後の東金市は「食」「雇用」「交流」をキーワードに発展していくべきという市民意見からの姿が浮かび上がってくる。

① 食

地元の食材を活用した魅力的な食の提供（グルメ、有機野菜、飲食店）、食育の推進、食を通じたイベント開催などが重要。

② 雇用

企業誘致による雇用創出、特に若者向けの企業誘致や起業支援が求められている。

③ 交流

みのりの郷東金を中心とした交流拠点の形成、若者が集まる場の提供、観光客の誘致などが重要。

今回の意見交換会を通して、建設経済常任委員会としてそれぞれの意見の背景や視点から施策を提案してみることが出来ました。更に次回以降の意見交換会に生かしてこれらの施策を連携させながら推進していくことが、10年後の東金市の発展につながると考えられます。

●今後の進め方についての一考察

意見のまとめ 1 から 3 の議論を通して今後進めていくべき方向性についてまとめます。

（1）食と商業、みのりの郷東金中心の活性化

①東金グルメの調査:

・ アンケート調査

市民や近隣住民を対象に、東金で不足していると思うグルメの種類、食べたいもの、飲食店の種類などをアンケート調査する。オンラインアンケートや街頭アンケートなどを組み合わせることで、幅広い層の意見を収集する。

・ 近隣市町村の調査

近隣の成功事例（例えば、道の駅でグルメが充実している地域、特産品を活かした飲食店が多い地域など）を調査し、東金市で応用できる点を探る。

・ 飲食店経営者へのヒアリング

地元の飲食店経営者や、新たに東金市で開業を検討している事業者にヒアリングを行い、東金市における飲食店の課題や可能性について意見を収集する。

- ・商業施設（特にサロン）の調査
ニーズ調査: 市民、特に女性を対象に、どのようなサロン（美容、リラクゼーション、エステなど）が不足していると感じているか利用料金やサービス内容の希望などを調査する。
競合調査: 近隣市町村のサロンの状況を調査し、東金市で不足しているサービスやターゲット層を明確にする。
- ・専売所の調査
現状把握: 現在の専売所の数、場所、営業時間、販売方法、PR 方法などを詳細に調査する。
- ・課題の明確化
専売所経営者へのヒアリングやアンケート調査を通じて、販売促進の課題、連携の可能性、情報発信の課題などを明確にする。
- ・みのりの郷東金の活用
利用者アンケート: 現在の利用者を対象に、営業時間延長の希望、若者向けのイベントや施設の要望、飲食店の充実に関する要望などを調査する。
若者へのヒアリング: 若者グループや団体にヒアリングを行い、みのりの郷東金でどのような過ごし方をしたいか、どのような施設やイベントがあれば利用したいかなどを具体的に聞き取る。
事業者の誘致検討: 若者向けの飲食店、カフェ、イベント企画会社など、みのりの郷東金で事業展開を検討する可能性のある事業者に情報提供を行い、意見交換などを行う。（スターバックスコーヒーと並立も考慮して）

（２）企業誘致と雇用創出、みのりの郷東金の活用

① 企業誘致の調査:

- ・企業ニーズ調査
東金市への進出を検討する可能性のある企業（特に若者向けの業種、半導体関連企業など）に対して、進出にあたっての要望（用地、インフラ、補助金など）を調査する。
- ・用地情報の整理
市内の遊休地、未利用地、農地転用の可能性のある土地などの情報を整理し、企業に提供できる用地情報を明確化する。
- ・他市町村の事例調査
企業誘致に成功している他市町村の事例を調査し、東金市で応用できる点を探る。
- ・若者の起業支援調査
商工会議所、JIU、高校との連携で具体策を検討すると共に、市の支援制度の提案も考えていく。

- ・若者へのアンケート・ヒアリング
若者がどのような分野で起業を考えているか、起業にあたっての課題や支援ニーズ（資金調達、ビジネスプラン作成支援、交流機会など）を調査。
 - ・支援制度の調査
他市町村の起業支援制度を調査し、東金市で導入すべき制度を検討する。
 - ・関係機関との連携
商工会議所、金融機関、大学など、起業支援に関わる機関と連携し、効果的な支援体制を構築する。
- ②みのりの郷東金の活用について
- ・将来構想の具体化
みのりの郷東金の拡張または移転、周辺への企業集約、観光・特産品の発信拠点化など、具体的な将来構想を策定する。
 - ・事業可能性調査: 構想に基づき、具体的な事業内容（アミューズメント施設、飲食店、物販施設など）の可能性、事業規模、収益性などを調査する。

（３）食と健康、食育と地産地消

①有機野菜の拡充調査

- ・生産者へのヒアリング
地元の農業生産者に対して、有機農業への転換意向、課題、支援ニーズなどを調査する。
- ・消費者ニーズ調査: 消費者に対して、有機野菜の需要、価格許容度、購入場所などを調査する。
- ・販路調査: 有機野菜の販売ルート（直売所、スーパー、ネット販売など）を調査し、生産者と消費者を結びつける仕組みを検討する。

②飲食店の新たなあり方調査:

- ・先進事例調査
食と健康をテーマにした飲食店、地元の食材を積極的に活用している飲食店などの先進事例を調査する。
- ・飲食店経営者との意見交換: 地元の飲食店経営者と意見交換を行い、東金市における食と健康をテーマにした飲食店の可能性について議論する。

③食育と地産地消の推進調査:

- ・食育プログラムの調査

他市町村の食育プログラムを調査し、東金市で導入できるプログラムを検討する。

- ・地産地消の取り組み調査

地元の食材を活用したメニュー開発、イベント開催、情報発信など、地産地消を推進する具体的な取り組みを検討する。

●全体を通して（まとめ）

① データに基づいた議論: 各調査で得られたデータを基に議論を進めることで、客観的で効果的な施策立案が可能になると考える。

② 市民参加の推進: ワークショップや意見交換会などを開催し、市民の意見を積極的に取り入れることで、より地域に根ざした施策展開が可能になると考えられる。

③ 関係機関との連携: 行政、商工会議所、農業団体、大学など、関係機関と連携することで、より多角的な視点からの検討が可能になると考えられる。

第1回意見交換会 常任委員会報告書の統合要約

統合要約

最後に、ここまで報告させていただいた3つの常任委員会（総務、文教厚生、建設経済）別のまとめ結果から結果を統合し、全体としての論点と課題、今後の取り組むべき方向性を展望として整理してみました。

「10年後の東金」を考えた際、議会として何に取り組むべきか、一つの方向性が整理できたと考えます。ここから更に何を具体化していくか、政策サイクルにのせる可能性などがあるのか、などなど、第2回の意見交換会に向けてヒントが得られたことが第一回の最大の成果だったと考えます。

1. 地域経済の活性化

- ・ 課題: 企業誘致の遅れ、若者の流出、商業施設不足、特産品の少なさ
- ・ 展望:
 - ・ 企業誘致の推進、特に若者向けの企業誘致や起業支援
 - ・ みのりの郷東金を中心とした産業交流拠点の形成
 - ・ 特産品開発とブランド化
 - ・ 食に関するイベント開催や飲食店の誘致
 - ・ 農業と観光の連携

2. 教育環境の充実と人材育成

- ・ 課題: 通学環境の整備、学力向上、部活動の活性化、不登校対策、人材育成
- ・ 展望:
 - ・ 学力向上のための教育環境整備
 - ・ 多様な学習機会の提供
 - ・ 部活動の指導体制強化
 - ・ 不登校対策の充実
 - ・ 人材育成のための支援策

3. 住みやすいまちづくり

- ・ 課題: 高齢者福祉、子育て支援、障害者福祉、防災
- ・ 展望:
 - ・ 高齢者の移動手段確保と生活環境整備
 - ・ 子育て支援策の充実
 - ・ 障害者福祉の向上

- 防災意識の向上と防災体制の強化

今後の取り組み

- 市民参加: ワークショップや意見交換会などを通じて、市民の意見を積極的に取り入れる。
- データに基づいた施策: 各調査で得られたデータを基に、客観的で効果的な施策を立案する。
- 関係機関との連携: 行政、商工会議所、農業団体、大学など、関係機関と連携し、より多角的な視点からの検討を行う。
- PDCA サイクルの実施: 施策の実施後も、効果検証を行い、必要に応じて改善していく。

具体的な施策例

- 地域特産品開発: 東金市の特産品を開発し、ブランド化することで、地域経済の活性化を図る。
- 若者向け起業支援: 起業塾の開催や、起業家同士の交流会など、若者の起業を支援する。
- 食育の推進: 地元の食材を活用したメニュー開発や、食に関するイベント開催など、食育を推進する。
- 多世代交流の促進: 世代間交流の場を設け、地域全体の活性化を図る。
- 防災意識の向上: 防災訓練の実施や、防災情報の共有など、防災意識の向上を図る。

まとめ

これらの施策を総合的に推進することで、東金市はより住みやすく、魅力的なまちへと発展することが期待されます。市民一人ひとりが主体的にまちづくりに関わり、持続可能な社会の実現を目指していくことが重要です。